

# 大中コミスクだより No.1

令和6年7月12日  
射水市立大門中学校運営協議会

皆さん、はじめまして。大門中学校運営協議会学校支援コーディネーターの堀です。  
この4月から市内各小中学校でコミュニティ・スクールが導入されました。大門中学校コミュニティ・スクールにおきましては、第1回学校運営協議会が5月30日に開催され、会長に山田彰さん(令和5年度PTA会長)、副会長に松長勝弘さん(大門福祉会理事長)が選出されました。また、令和6年度の学校運営方針、協議会の年間活動計画について協議が行われ、承認されました。今回は大門中学校コミュニティ・スクールの詳細や活動予定についてお伝えします。

## 1 コミュニティ・スクールってなあに？

地域と学校が一緒になって子どもたちの教育を担っていくという考え方です。学校運営に地域の声を積極的に活かし、地域と一体になって特色ある学校づくりを進めます。



大門中学校コミュニティ・スクールを「大門コミスク」とし、活動していきます。

地域の皆さんのご協力をお願いいたします

## 2 コミュニティ・スクールを運営するための学校運営委員会委員の紹介



令和6年度大門中学校学校運営協議会委員

職	氏名	現職
会長	山田 彰	令和5年度PTA会長・市P連会長
副会長	松長 勝弘	社会福祉法人 大門福祉会 理事長
委員	島田 公志	大門商工会
委員	旅 昭雄	大島商工会
委員	三川 俊彦	大門地域振興会
委員	瀧田 秀成	大島地域振興会
委員	野澤 寛	学校医
委員	高越美栄子	二口地区社会福祉協議会
委員	夏野 仁美	主任児童委員
委員	北林 恒好	射水交通安全協会
委員	徳永 勝久	令和6年度PTA会長
コーディネーター	堀 英子	

## 3 令和6年度活動計画について

現在のところ、右表のような活動を予定しています。活動の様子や予定については学校ホームページでお知らせしていきます。



月	活動予定
5月	第1回学校運営協議会
6月	PTAあいさつ運動/運動会準備
	生徒・地域との交流(こぶし園)
7月	「14歳の挑戦」準備協力
	たより①発行
8月	生徒・地域との交流(二口きらきらネット)
	運動会・準備協力
	たより②発行
9月	文化活動発表会・準備協力
	「14歳の挑戦」実施協力
10月	文化活動発表会・実施協力
11月	生徒・地域との交流(おおしまふれあい祭りへの参加) 第2回学校運営協議会
12月	たより③発行
令和7年 2月	生徒・地域との交流 次年度計画
3月	第3回学校運営協議会
	たより④発行

## 4 生徒・地域との交流

### ①こぶし園



6月18日(火)園芸部の生徒がこぶし園を訪問し交流をしました。

紙風船を一緒に制作し、できあがった紙風船にシールを貼り、最後は紙風船で一緒に遊びました。利用者の皆さんにも喜んでいただき、帰り際「また来てね」と声をかけていただきました。



#### <生徒の感想>

6月18日にこぶし園に行き、お年寄りの方々とユニバーサル紙風船で遊びました。こぶし園には、私たちが事前に作ったユニバーサル紙風船を持って行き、お年寄りの方々と一緒に色々なシールでデコレーションしました。その後、紙風船を膨らませて飛ばしたり、投げあいっこをしたりして遊びました。お年寄りの方の中には、小さい頃に紙風船で遊んだ経験のある方もおられ、膨らませるのがとても上手な方もおられました。1時間という短い時間でしたが、私たち中学生と地域がつながったような気がしました。



### ②大島太鼓実習

7月3日(水)、4日(木)に、3年生の生徒を対象に和太鼓実習が行われました。これは、大島太鼓の指導者である瀧田秀成さんのご協力で実現したものです。瀧田さんは大中コミスクの運営協議会委員でもあり、そのご縁で今回の企画が実現する運びとなりました。生徒たちはグループに分かれ、それぞれ締太鼓と長胴太鼓を担当しました。そして、指導者の方々に丁寧に教えていただきました。その後、各学級で選ばれたメンバーが、3年生全員の前で演奏を披露しました。慣れないバチさばきに戸惑いながらも、楽しそうに太鼓を打つ姿が印象に残りました。



#### <生徒の感想から>

- ・太鼓を打ったのは初めてでしたが、楽しくて、太鼓の魅力を知ることができました。演奏を聴いていると、腕を押し出すように打っているから力強くなるのだと思いました。太鼓を打っている姿がとてもかっこよくて、射水の伝統を受け継いでいきたいと思いました。
- ・間違えずに思いっきり打ったときや音を揃えて打ったとき、とてもうれしかったし、楽しくて、和太鼓の面白さに触れられた気がしました。どんな音にも負けにくい力強くて、重みがあり、芯のある太鼓の音がかっこいいなと思いました。太鼓を打った後に響く余韻も美しいなと感じました。これからもこの素晴らしい伝統文化を受け継いでいくために、たくさんの人に演奏を聞いてもらい、よさに気付いてもらいたいです。